

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-327550  
(43)Date of publication of application : 28.11.2000

---

(51)Int.CI. A61K 7/48  
A61K 7/00

---

(21)Application number : 11-138170 (71)Applicant : KOSE CORP  
(22)Date of filing : 19.05.1999 (72)Inventor : HATA TOMONORI  
HOSHINO HIROSHI  
UEHARA SHIZUKA

---

## (54) SKIN PREPARATION FOR EXTERNAL USE

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a skin preparation for external use capable of preventing the production of lipid peroxides and inflammation, blackening and aging of skin and having excellent scavenging effects on active oxygen by including an extract of CAMU CAMU (botanical name: Myrciaria dubia) and an active oxygen scavenger.

**SOLUTION:** This skin preparation for external use is obtained by including (A) an extract of CAMU CAMU in an amount of preferably 0.0001–5 wt.%, more preferably 0.001–3 wt.% expressed in terms of a dry solid and (B) an active oxygen scavenger in an amount of preferably 0.0001–5 wt.%, more preferably 0.001–3 wt.% expressed in terms of a dry solid. The ingredient A is prepared by carrying out extraction thereof from a fruit of the CAMU CAMU which is a plant belonging to the family Myrtaceae with an extracting solvent (e.g. ethyl alcohol) under condition of a low temperature or heating. Vitamin C (derivative), superoxide dismutase, mannitol, an extract of Scutellaria Radix, an extract of a mellisa, an extract of a rosemary and the like are preferably used.

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-327550

(P2000-327550A)

(43)公開日 平成12年11月28日(2000.11.28)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

A 61 K 7/48  
7/00

識別記号

F I

テ-ヤコ-ト(参考)

A 61 K 7/48  
7/00

4 C 0 8 3

C

D

H

K

審査請求 未請求 請求項の数 6 O.L (全 10 頁)

(21)出願番号

特願平11-138170

(22)出願日

平成11年5月19日(1999.5.19)

(71)出願人 000145862

株式会社コーセー

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

(72)発明者 畑 友紀

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー  
一研究本部内

(72)発明者 星野 拓

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー  
一研究本部内

(72)発明者 上原 静香

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー  
一研究本部内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 皮膚外用剤

(57)【要約】

【課題】 活性酸素除去剤を単に配合した皮膚外用剤では、活性酸素除去剤の効果が十分でなかったり、あるいは、製剤内で変質するなどして所期の効果が得られない場合が多く、それを改善する。

【解決手段】 カムカム抽出物と活性酸素除去剤を含有する皮膚外用剤。

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分(A)及び(B)

(A) カムカム抽出物

(B) 活性酸素除去剤

を含有することを特徴とする皮膚外用剤。

【請求項2】 活性酸素除去剤が、スーパー・オキサイド・ディスムターゼ、マンニトール、カロチノイド類、ハイドロキノン及びその誘導体、ビリルビン、コレステロール、トリプトファン、ヒスチジン、クエルセチン、クエルシトリン、カテキン及びその誘導体、ルチン及びその誘導体、タウリン、チオタウリン、リン脂質、グラブリジン、グラブレン、リクリイチン、イソリクリイチン、ビタミンA類及びそれらの誘導体、ビタミンB類及びそれらの誘導体、ビタミンC類及びそれらの誘導体、ビタミンD類及びそれらの誘導体、ビタミンE類及びそれらの誘導体、グルタチオン及びその誘導体、ジブチルヒドロキシトルエン、ブチルヒドロキシアニソール、没食子酸及びその誘導体から選ばれたものである請求項1記載の皮膚外用剤。

【請求項3】 活性酸素除去剤の含有量が0.0001～5重量%である請求項2記載の皮膚外用剤。

【請求項4】 活性酸素除去剤が、卵殻膜抽出物、胎盤抽出物、ステビア抽出物、カンゾウ抽出物、酵母抽出物、オウゴン抽出物、海藻抽出物、トルメンチラ抽出物、羅漢果抽出物、イチョウ抽出物、靈芝抽出物、ブドウ抽出物、ケイケットウ抽出物、茶抽出物、甜茶抽出物、シャクヤク抽出物、ゲンチアナ抽出物、サンザシ抽出物、ローズマリー抽出物、モッカ抽出物、ユキノシタ抽出物、ヤシャジツ抽出物、ゲンノショウコ抽出物、ボタンビ抽出物、メリッサ抽出物、バセリ抽出物、ジコッピ抽出物、レタス抽出物、キュウリ抽出物、ビフィズス菌代謝産物から選ばれたものである請求項1記載の皮膚外用剤。

【請求項5】 活性酸素除去剤の含有量が乾燥固体分として0.0001～5重量%である請求項4記載の皮膚外用剤。

【請求項6】 カムカム抽出物の含有量が、乾燥固体分として0.0001～5重量%である請求項1～5のいずれか1項に記載の皮膚外用剤。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、皮膚外用剤に関し、更に詳細には、カムカム抽出物と活性酸素除去剤を含有することにより、過酸化脂質の生成や肌の炎症、黒化、老化を防止することができる、優れた活性酸素除去効果を有する皮膚外用剤に関する。

【0002】

【従来の技術】従来より、乳液、クリーム、化粧水、パック、洗浄料、ファンデーション、軟膏、分散液等の皮膚外用剤には、過酸化脂質の生成や肌の炎症、黒化、老

2

化を防止することを目的として、これらに種々の薬効成分が加えられている。近年では、皮膚老化の原因の一つとして、生体に対する活性酸素の悪影響が挙げられている。活性酸素には、スーパー・オキサイド、一重項酸素、ヒドロキシラジカル、過酸化水素等があるが、これらは過酸化脂質の生成や、核、タンパク質、酵素にダメージを与えることが分かっており、これらが大量に発生した場合には疾病や死を招くことがある。また、量的には少なくとも、活性酸素に起因するダメージの蓄積により生体機能が低下して、いわゆる、老化現象の一因になっている。このため、従来より様々な活性酸素除去剤が開発されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】さらに、より高い効果を有する活性酸素除去剤の開発が求められているが、生体系への適用を考慮した場合、単にその効果のみならず、安全性の観点からも十分満足できるものでなければならない。すなわち、優れた活性酸素除去効果を有し、なつかつ生体系への適用に際しても好適な活性酸素除去剤の開発が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、皮膚外用剤に過酸化脂質の生成や肌の炎症、黒化、老化を防止することを目的として配合された活性酸素除去剤の効果を向上させるべく鋭意検討を行った結果、カムカム抽出物と活性酸素除去剤を組み合わせれば、本来活性酸素除去剤の有する作用が十分発揮されることを見出し、本発明を完成した。

【0005】すなわち、本発明は、次の成分(A)及び(B)

(A) カムカム抽出物  
(B) 活性酸素除去剤

を含有する皮膚外用剤を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の(A)成分であるカムカム抽出物は、フトモモ科に属する植物であるカムカム(学名Myrciaria Dubia)の果実から、抽出溶媒を用いて抽出する。その調製法は特に限定されないが、例えば種々の適当な溶媒を用いて低温もしくは

40 室温～加温下で抽出される。

【0007】抽出溶媒としては、例えば水；メチルアルコール、エチルアルコール等の低級1価アルコール；グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール等の液状多価アルコール等の1種または2種以上を用いることができる。好ましい抽出方法の例としては、含水濃度20～90% (v/v) のエチルアルコールを用い、低温にて2～3日間抽出を行ったのち濾過し、得られた濾液を更に5日間ほど放置して熟成させ、再び濾過を行う方法が挙げられる。

50 【0008】本発明の(A)成分であるカムカム抽出物

の含有量は、乾燥固体分として好ましくは0.0001～5重量%（以下単に「%」で示す）であり、より好ましくは0.001～3%である。カムカム抽出物の含有量がこの範囲であると、本発明の効果がより良く発現する。

【0009】本発明の（B）成分である活性酸素除去剤としては、スーパーオキサイドディスムターゼ（SOD）、マンニトール、ベータカロチン、アスタキサンチン、ルテイン等のカロチノイド類、ハイドロキノン及びその誘導体、ビリルビン、コレステロール、トリプトファン、ヒスチジン、クエルセチン、クエルシトリン、カテキン及びその誘導体、ルチン及びその誘導体、タウリン、チオタウリン、大豆及び卵由来のリン脂質、グラブリジン、グラブレン、リクリチン、イソリクリチン、レチノール及びその誘導体（パルミチン酸レチノール、酢酸レチノール等）、レチナール及びその誘導体、デヒドロレチナール等のビタミンA類及びそれらの誘導体、チアミン類（チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩）、リボフラビン類（リボフラビン、酢酸リボフラビン等）、ピリドキシン類（塩酸ピリドキシン、ピリドキシンジオクタノエート等）、フラビニアデニンジヌクレオチド、シアノコバラミン、葉酸類、ニコチニン酸類（ニコチニン酸アミド、ニコチニン酸ベンジル等）、コリン類等のビタミンB類及びそれらの誘導体、アスコルビン酸及びその誘導体（L-アスコルビン酸、パルミチン酸L-アスコルビル、ジバルミチン酸L-アスコルビル、イソバルミチン酸L-アスコルビル、ジイソバルミチン酸L-アスコルビル、テトライソバルミチン酸L-アスコルビル、ステアリン酸L-アスコルビル、ジステアリン酸L-アスコルビル、イソステアリン酸L-アスコルビル、ジイソステアリン酸L-アスコルビル、ミリスチン酸L-アスコルビル、ジミリスチン酸L-アスコルビル、イソミリスチン酸L-アスコルビル、ジイソミリスチン酸L-アスコルビル、オレイン酸L-アスコルビル、ジオレイン酸L-アスコルビル、2-エチルヘキサン酸L-アスコルビル、L-アスコルビン酸リノ酸リノ酸エステルナトリウム、L-アスコルビン酸リノ酸リノ酸エステルカリウム、L-アスコルビン酸リノ酸リノ酸エステルマグネシウム、L-アスコルビン酸リノ酸エステルカルシウム、L-アスコルビン酸リノ酸エステルアルミニウム、L-アスコルビン酸硫酸エステルナトリウム、L-アスコルビン酸硫酸エステルカリウム、L-アスコルビン酸硫酸エステルマグネシウム、L-アスコルビン酸硫酸エステルカルシウム、L-アスコルビン酸ナトリウム、L-アスコルビン酸カリウム、L-アスコルビン酸マグネシウム、L-アスコルビン酸カルシウム、L-アスコルビン酸アルミニウム等）等のビタミンC類及びそれらの誘導体、エルゴカルシフェロール、コレカルシフェロール、ジヒドロキシスタナール等のビタミンD類及びそれらの誘導体、トコフェロール及びその誘導体（d<sub>1</sub>-α（β、γ）-トコフェロール、酢酸d<sub>1</sub>-α-トコフェロール、ニコチニン酸-d<sub>1</sub>-α-トコフェロール、リノール酸-d<sub>1</sub>-α-トコフェロール、コハク酸d<sub>1</sub>-α-トコフェロール等）、ユビキノン類等のビタミンE類及びそれらの誘導体、グルタチオン及びその誘導体、ジブチルヒドロキシトルエン（BHT）、ブチルヒドロキシアニソール（BHA）、没食子酸及びその誘導体等が好ましいものとして挙げられる。これらの「誘導体」には、形成可能な塩が含まれる。

【0010】これらの活性酸素消去剤のうち、特に好ましいものとしては、ビタミンC及びその誘導体、スーパーオキサイドディスムターゼ（SOD）、マンニトール、アスタキサンチン、ベータカロチン、d<sub>1</sub>-α-トコフェロール、ジブチルヒドロキシトルエン（BHT）、ブチルヒドロキシアニソール（BHA）が挙げられる。

【0011】また、本発明の他の（B）成分として好ましいものとして、以下の動植物及び微生物由来の活性酸素除去剤が挙げられる。卵殻膜抽出物、ブタ、ウシ等の胎盤抽出物、ステビア抽出物、カンゾウ抽出物、酵母抽出物、オウゴン抽出物、海藻抽出物、トルメンチラ抽出物、羅漢果抽出物、イチョウ抽出物、靈芝抽出物、ブドウ抽出物、ケイケツウ抽出物、緑茶、紅茶、烏龍茶等の茶抽出物、甜茶抽出物、シャクヤク抽出物、ゲンチアナ抽出物、サンザン抽出物、ローズマリー抽出物、モッカ抽出物、ユキノシタ抽出物、ヤシャジツ抽出物、ゲンノショウコ抽出物、ボタンビ抽出物、メリッサ抽出物、バセリ抽出物、ジコッピ抽出物、レタス抽出物、キュウリ抽出物、ビフィズス菌代謝産物等が挙げられる。

【0012】これらの活性酸素消去剤のうち、特に好ましいものとしては、オウゴン抽出物、メリッサ抽出物、カンゾウ抽出物、ユキノシタ抽出物、ゲンチアナ抽出物、ローズマリー抽出物が挙げられる。

【0013】本発明の皮膚外用剤における活性酸素除去剤の含有量は、0.0001～5%が好ましく、より好ましくは0.001～3%である。動植物及び微生物由来の抽出物等を抽出液のまま用いる場合は、乾燥固体分としてこの範囲であれば良い。そして、活性酸素消去剤がこの範囲であれば、カムカム抽出物と組み合わせた場合、製剤中のカムカム抽出物に影響を及ぼすことがなく、より優れた経時安定性、皮膚老化防止効果及び肌あれ改善効果が得られる。すなわち、皮膚内での活性酸素生成に起因する過酸化脂質の生成や、肌の炎症、黒化、老化等の防止に極めて有効である。なお、これらの活性酸素除去剤は一種又は二種以上を組み合わせて用いることができる。

【0014】本発明の皮膚外用剤は、常法に従い、必須成分である（A）成分と（B）成分とを通常の皮膚外用剤として知られる種々の形態に調製することができる。

【0015】皮膚外用剤の形態の例としては、特に限定されず、例えば、乳液、クリーム、化粧水、パック、洗浄料等のスキンケア化粧料、口紅、ファンデーション等のメイキャップ化粧料、頭皮用化粧料、軟膏、分散液等の外用医薬品などとすることができ、その剤型についても特に制限はなく、固型状、ペースト状、ムース状、ジェル状、粉末状、溶液系、可溶化系、乳化系、粉末分散系、多層状とすることができる。

【0016】また、本発明の皮膚外用剤には、上記(A)、(B)成分以外に、本発明の効果を損なわない範囲で、通常、化粧料や医薬部外品、外用医薬品等の製剤に使用される成分、すなわち、水、油剤、界面活性剤、金属セッケン、ゲル化剤、粉体、アルコール類、水溶性高分子、皮膜形成剤、樹脂、紫外線防御剤、包接化合物、抗菌剤、香料、消臭剤、塩類、PH調整剤、清涼剤、動物・微生物由来抽出物、植物抽出物、血行促進剤、収斂剤、抗脂漏剤、美白剤、抗炎症剤、保湿剤、抗炎症剤、角質溶解剤、酵素、ホルモン類、ビタミン類等を加えることができる。

【0017】

【実施例】次に参考例、試験例及び実施例を挙げて本発明を更に詳細に説明するが、本発明はこれらになんら制約されるものではない。

【0018】参考例1 カムカム抽出物の製造

カムカム(フトモモ科の果樹であるMyrciaria Dubia)の果実を乾燥したもの30gに、含水濃度80% (v/v)エチルアルコール100mlを加え、室温にて3日間抽出を行った後濾過してカムカム抽出物を得た(乾燥固体分3.0%)。

【0019】参考例2 オウゴン抽出物の製造

\*オウゴン(コガネバナの根)10gを細切し、無水エタノール100mlを添加し、時々攪拌しながら室温で5日間抽出し、濾過してオウゴン抽出物を得た(乾燥固体分1.0%)。

【0020】試験例1 スーパーオキサイド除去活性測定試験

カムカム抽出物と表1記載の活性酸素除去剤を、それ単独または混合して試料とし、水で希釈後、下記測定方法により、スーパーオキサイド除去活性を測定した。

10 【0021】(測定方法) 0.05M炭酸ナトリウム緩衝液(pH10.2)2.4mlに基質溶液[3.0mMキサンチン(0.05M炭酸ナトリウム緩衝液に溶解)]0.1ml、3.0mMのEDTA 0.1ml、0.15% (w/v)のウシ血清アルブミン0.1ml、1.0.75mMニトロブルーテトラゾリウム0.1ml及び各被験試料0.1mlを混合し、25°Cで10分間放置した。次いで、酵素溶液[キサンチンオキシダーゼ溶液(精製水にて約0.04units/mlに希釈)]0.1mlを加えて反応を開始し、25°Cで20分間インキュベートした後、6mMのCaCl<sub>2</sub> 0.1mlを加えて反応を停止する。次いで560nmにおける吸光度(A)を測定する。

20 【0022】対照には被験試料のかわりに精製水をえた試料の吸光度(B)、また各試料のブランクには、6mMのCaCl<sub>2</sub> 0.1mlを加え、反応停止後に、キサンチンオキシダーゼ0.1mlを添加した試料の吸光度(C)を測定し、次式よりスーパーオキサイド除去率を算出した。その結果を表1に示す。

【0023】

【数1】

$$\frac{B - (A - C)}{B} \times 100$$

A : 試料の酵素反応による吸光度

B : 対照の酵素反応による吸光度

C : 試料の無酵素反応による吸光度

【0024】

【表1】

\*30

試料	カムカム抽出物 * 1 [試料0.1 ml中の重量 ( $\mu$ g)]	SOD * 2 [試 料0.1ml中の量 量 ( $\mu$ g)]	オウゴン抽出物 * 3 [試料0.1 ml中の重量 ( $\mu$ g)]	スバーホホト除去率 (%)
1	1.5	-	-	8.0
2	6.0	-	-	18.0
3	12.0	-	-	40.0
4	-	0.01	-	18.2
5	-	0.015	-	27.9
6	-	0.02	-	42.1
7	-	-	1.0	18.5
8	-	-	3.0	34.7
9	1.6	0.01	-	50.0
10	1.5	0.02	-	78.3
11	6.0	0.015	-	87.3
12	12.0	0.015	-	94.3
13	1.5	-	1.0	48.0
14	1.6	-	3.0	70.0
15	6.0	-	3.0	85.0

\* 1 参考例1で製造したもの

\* 2 シグマ社製；ウシ赤血球より得たもの (3.57units/mg)

\* 3 参考例2で製造したもの

【0025】表1の結果より明らかなように、カムカム抽出物は単独でもSOD様活性を有していたが、SOD、オウゴン抽出物と併用することにより、相乗的な作用を発揮し、活性酸素除去に極めて有効であることが示された。

【0026】実施例1 クリーム

表2に示す組成及び下記製法でクリーム（本発明品1、2及び比較品1～4）を調製し、その美肌効果及び皮膚老化防止効果を調べた。この結果も併せて表2に示す。

【0027】

【表2】

成 分 (%)	本発明品		比 較 品			
	1	2	1	2	3	4
(1) ミツロウ	8.0	8.0	8.0	8.0	6.0	8.0
(2) セタノール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
(3) 還元ラノリン	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
(4) スクワラン	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0
(5) グリセリンモノステアレート	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
(6) 銀油型モノステアレン酸グリセリン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
(7) ポリオキシエチレンソルビタンモノラクリン酸エステル(20E.O.)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
(8) カムカム抽出物*1	1.0	1.0	1.0	—	—	—
(9) メリッサ抽出物*2	1.0	1.0	—	1.0	1.0	—
(10) 酢酸-dl-α-トコフェロール*3	—	0.1	—	—	0.1	—
(11) 防腐剤	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
(12) 香料	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
(13) 精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量
美肌効果	有効	12	13	2	3	4
	やや有効	3	1	3	10	10
	無効	0	1	10	2	1
老化防止効果	有効	11	12	2	1	1
	やや有効	3	3	3	4	4
	無効	1	0	10	10	13

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 メリッサ1kgを破碎し、50% (v/v) エチルアルコール10リットルを加え、15日間室温にて浸漬した後、遠液を冷暗所にて5日間放置した後、滤過して得られたもの

\*3 シグマ社製

## 【0028】(製法)

A. 成分(1)～(7)及び(10)～(12)を混合し、加熱して70℃に保つ。

B. 成分(13)を混合し、加熱して70℃に保つ。

C. AにBを加え、混合した後、冷却して成分(8)及び(9)を加えて均一に混合してクリームを得た。

【0029】(試験方法)被験クリーム1品につき25～55才の女性15名をパネルとし、毎日朝と夜の2回、12週間にわたり、洗顔後に被験クリームの適量を顔面に塗布した。塗布による美肌効果及び皮膚老化防止効果を以下の基準によって評価した。

## 【0030】(評価基準)

## 美肌効果

## &lt;評価&gt; &lt;内 容&gt;

有効：肌のくすみが目立たなくなった。

\* やや有効：肌のくすみがあまり目立たなくなった。

無効：使用前と変化なし。

## 【0031】皮膚老化防止効果

有効：肌のはり、つやが改善された。

やや有効：肌のはり、つやがやや改善された。

無効：使用前と変化なし。

【0032】表2の結果に示す如く、本発明品1及び2に代表されるカムカム抽出物と活性酸素除去剤を配合したクリームを皮膚に適用することにより、肌の「くすみ」等の発生の防止、美しい肌とともに、肌のはり、つやが改善され、皮膚の老化を防止することが明らかとなった。

## 40 【0033】

## 実施例2 化粧水

(処方)	(%)
(1) グリセリン	6.0
(2) 1, 3-ブチレングリコール	5.5
(3) ポリオキシエチレン(20E.O.)	1.5
ソルビタンモノラウレート	
(4) エチルアルコール	9.0
(5) カムカム抽出物*1	10.0
(6) マンニトール*2	0.5

11

(7) 防腐剤	適量
(8) 香料	適量
(9) 精製水	残量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 シグマ社製

【0034】(製法) A. 成分(3)、(4)、(7) \*を混合して、化粧水を得た。

及び(8)を混合溶解する。B. 成分(1)、(2)、 【0035】

(5)、(6)及び(9)を混合溶解する。C. AとB\*

## 実施例3 乳液

(処方)	(%)
(1) ポリオキシエチレン(10E.O.) ソルビタンモノステアレート	1.0
(2) ポリオキシエチレン(60E.O.) ソルビタンテトラオレエート	0.5
(3) グリセリルモノステアレート	1.0
(4) ステアリン酸	0.5
(5) ベヘニルアルコール	0.5
(6) スクワラン	8.0
(7) d1- $\alpha$ -トコフェロール*3	1.0
(8) カムカム抽出物*1	3.0
(9) アスタキサンチン*2	0.02
(10) 防腐剤	0.1
(11) カルボキシビニルポリマー	0.1
(12) 水酸化ナトリウム	0.05
(13) エチルアルコール	5.0
(14) 精製水	残量
(15) 香料	適量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 シグマ社製

\*3 エーザイ社製

【0036】(製法)

A. 成分(11)～(14)を加熱混合し、70°Cに保つ。

B. 成分(1)～(7)、(9)及び(10)を加熱混合し、70°Cに保つ。※

※ C. BにAを加えて混合し、均一に乳化する。

D. Cを冷却後成分(8)及び(15)を加え、均一に混合して乳液を得た。

【0037】

## 実施例4 軟膏

(処方)	(%)
(1) ステアリン酸	18.0
(2) セタノール	4.0
(3) トリエタノールアミン	2.0
(4) グリセリン	5.0
(5) カムカム抽出物*1	2.0
(6) カンゾウ抽出物*2	0.5
(7) 精製水	残量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 丸善製薬社製

【0038】(製法)

A. 成分(3)、(4)及び(7)の一部を加熱混合し、75°Cに保つ。

B. 成分(1)及び(2)を加熱混合し、75°Cに保

つ。

C. AをBに徐々に加える。

D. Cを冷却しながら成分(7)の残部で溶解した成分50 (5)、(6)を加え、軟膏を得た。

【0039】実施例2の化粧水、実施例3の乳液及び実施例4の軟膏はいずれも経時安定性に優れ、皮膚に適用することにより、肌のはり、つやが改善され、肌のくす\*

\*みや皮膚の老化を防止するものであった。  
【0040】

## 実施例5 洗浄料

(处方)	(%)
(1) ステアリン酸	10.0
(2) バルミチン酸	8.0
(3) ミリスチン酸	12.0
(4) ラウリン酸	4.0
(5) オレイルアルコール	1.5
(6) 精製ラノリン	1.0
(7) 香料	適量
(8) 防腐剤	0.1
(9) 水酸化カリウム	6.0
(10) カムカム抽出物*1	0.5
(11) オウゴン抽出物*2	0.5
(12) 精製水	残量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 参考例2で製造したもの

## 【0041】(製法)

- A. 成分(9)及び(12)を加熱混合し、70°Cに保つ。  
 B. 成分(1)～(6)及び(8)を加熱混合し、70°Cに保つ。  
 C. BにAを加えてしばらく70°Cに保ち、けん化反応が終了後、50°Cまで冷却し、成分(7)、(10)及※

20※び(11)を加え、冷却して洗浄料を得た。

【0042】実施例5は、経時安定性に優れ、皮膚に適用することによって、洗いあがりがしっとりとして保湿性に優れ、肌のキメを整え、はり、つやを与える洗浄剤であった。

## 【0043】

## 実施例6 パック

(处方)	(%)
(1) ポリビニルアルコール	20.0
(2) エチルアルコール	20.0
(3) グリセリン	5.0
(4) カオリン	6.0
(5) カムカム抽出物*1	1.0
(6) ローズマリー抽出物*3	1.0
(7) ユキノシタ抽出物*2	0.2
(8) 防腐剤	適量
(9) 香料	0.05
(10) 精製水	残量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 一丸ファルコス社製

\*3 丸善製薬社製

## 【0044】(製法)

- A. 成分(1)、(3)、(4)及び(10)を混合し、70°Cに加熱し、攪拌する。  
 B. 成分(2)、(8)及び(9)を混合する。  
 C. BをAに加え、混合した後、冷却して成分(5)～★

★(7)を均一に分散してパックを得た。

【0045】実施例6は、経時安定性に優れ、皮膚に適用することによって、肌のはり、つやが改善され、肌のくすみや皮膚の老化を防止するパックであった。

## 【0046】

## 実施例7 リップクリーム

(处方)	(%)
(1) マイクロクリスタリンワックス	9.0
(2) 固形バラフィン	8.0

15

(3) ワセリン	15.0
(4) エチルヘキサン酸セチル	15.0
(5) 流動バラフィン	8.0
(6) ヒマシ油	残量
(7) カムカム抽出物*1	0.02
(8) ベーターカロチン*2	0.01
(9) BHT*3	0.01
(10) 香料	適量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 和光純薬社製

\*3 シグマ社製

## 【0047】(製法)

A. 成分(1)～(6)を100～110℃にて加熱溶

解する。

B. 90℃にてAに成分(7)～(10)を加えて攪拌  
混合する。 \*

16

(3) ワセリン	15.0
(4) エチルヘキサン酸セチル	15.0
(5) 流動バラフィン	8.0
(6) ヒマシ油	残量
(7) カムカム抽出物*1	0.02
(8) ベーターカロチン*2	0.01
(9) BHT*3	0.01
(10) 香料	適量

\* C. Bを冷却、成型してリップクリームを得た。

【0048】実施例7は、経時安定性、使用感及び仕上がりに優れ、唇を滑らかに保ち、荒れを防止するリップクリームであった。

## 【0049】

## 実施例8 パウダーファンデーション

(处方)	(%)
(1) マイカ	50.0
(2) 酸化チタン	15.0
(3) ナイロンパウダー	5.0
(4) カオリン	残量
(5) 着色顔料	3.0
(6) バラメトキシケイ皮酸 2-エチルヘキシル	2.0
(7) ジメチルポリシロキサン	2.0
(8) スクワラン	3.0
(9) トリオクタン酸グリセリル	2.0
(10) ワセリン	1.0
(11) カムカム抽出物*1	0.02
(12) ゲンチアナ抽出物*2	0.5
(13) BHA*3	0.01
(14) 香料	適量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 テクノープル社製

\*3 シグマ社製

## 【0050】(製法)

A. 成分(1)～(5)を混合する。

B. 成分(6)～(14)を加熱溶解したものを添加混  
合して粉碎する。C. Bを金皿に充填しプレス成型して、パウダーファン  
デーションを得た。【0051】実施例8のパウダーファンデーションは、  
経時安定性、使用感及び仕上がりに優れ、皮膚に適用す  
ることにより、肌のくすみ、荒れ等を抑え、皮膚の老化  
を防止するものであった。

## 【0052】

【発明の効果】以上記述したように、カムカム抽出物と活性酸素除去剤を組み合わせることにより、活性酸素除去剤の本来有する効能を十分に発揮させることができ  
る。すなわち、皮膚中の活性酸素生成に起因する過酸化脂質の生成、炎症、黒化、老化等に対し極めて高い改善及び予防効果を有するものである。従って、本発明の皮膚外用剤は、活性酸素除去剤の本来有する性能を十分に発揮させることができるため、美容や医療において極めて有用なものである。

フロントページの続き

F ターム(参考) 4C083 AA031 AA071 AA082 AA111  
AA112 AB032 AB242 AB432  
AB442 AC012 AC022 AC072  
AC102 AC122 AC131 AC132  
AC242 AC342 AC352 AC392  
AC402 AC472 AC491 AC542  
AC581 AC791 AC841 AC881  
AD092 AD112 AD162 AD391  
AD411 AD471 AD491 AD512  
AD621 AD622 AD631 AD641  
AD651 AD661 AD662 CC02  
CC04 CC05 CC07 CC12 CC13  
CC23 EE06 EE12 EE16